92-05-25068

慶應義塾大学ビジネス・スクール

続 ケースメソッドによる経営能力の育成

ケースメソッドによる学びとはどのようなものか。この問いに答えるための新たな切り口を示したのが、『ケースメソッドによる経営能力の育成』(2003,髙木晴夫,慶應義塾大学ビジネススクール・ノート）である。この中で髙木は、「大学で教える学問には理論知識と実践知識がある」として、知識の分類を試みた。髙木によれば、経営学を学ぶ場面を想定するならば、理論知識は職能領域特定的な「専門知識」に相当し、もう一方の実践知識は領域横断的な属人的能力:「統合力」「洞察力」「戦略力」を指すのだという。その上で髙木は、ケースメソッドは「力」という文字で終わる実践知識群を高めると指摘した。

このノートの目的は、ケースメソッドと呼ばれるディスカッションを通した学習で「なぜ実践知識を高めることができるのか」を理論的に探求することにある。そのために、『ケースメソッドによる経営能力の育成』が議論している内容をさらに掘り下げ、そこに新しい説明を加えて具体化していくことを試みる。したがって、読者は『ケースメソッドによる経営能力の育成』(2003,髙木）を読了されていることを想定して、このノートは作成されている。主な読者像としては、ケースメソッドでの学習初期段階にあって、明確な学習イメージをつかんでから学び始めたいと考えている学習者を想定したが、ケースメソッドでの学習歴のある読者にも新たな洞察が得られることを願っている。

このノートは、ケースメソッドによるディスカッション授業に参加する人々へのガイダンスとして書かれたものである。巻末に示した文献を参考に、竹内伸一(ケースメソッド教育研究所)が作成した。Copyright Shinichi TAKEUCHI, 2004

本のノートは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ノートの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町２丁目１番１号、電話 045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp)。また、ノートの注文は http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。

Copyright©2004 は竹内伸一が保有する。